

# クリストフォロス

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

クリストフォロス (Χριστόφορος, Christophoros, 原意はギリシア語の「キリストを背負うもの」) は、3世紀のローマ皇帝デキウスの時代に殉教したというキリスト教の伝説的な聖人。

## 目次

- 1 概要
- 2 伝承
  - 2.1 カトリック教会における伝承
  - 2.2 正教会における伝承
  - 2.3 その他の伝承
- 3 出典
- 4 関連項目

## 概要

正教会・非カルケドン派・カトリック教会・聖公会・ルーテル教会で聖人とみなされている。カトリック教会では旅行者の守護聖人ともなっている。伝統的に7月25日がクリストフォロスの祝日とされてきたが、現在のカトリック教会の聖人暦からは「史実性に乏しい」として除外されている。日本正教会では「聖致命者ハリストフォル」と表記されている<sup>[1]</sup>。

## 伝承

クリストフォロスの物語は教派によって微妙に異なっている。

### カトリック教会における伝承

伝承ではクリストフォロスはもともとレプロブスという名前のローマ人だったという。彼はキリスト教に改宗し、イエス・キリストに仕えることを決意したという。別の伝承ではカナン出身でオフエロスという名前だったともいう。彼は隠者のもとを訪れ、イエス・キリストにより親しく仕える方法を問うた。隠者は人々に奉仕することがその道であるといい、流れの急な川を示して、そこで川を渡る人々を助けることを提案した。レプロブスはこれを聞き入れ、川を渡ろうとする人々に無償で尽くし始めた。

ある日、小さな男の子が川を渡りたいとレプロブスに言った。彼があまりに小さかったのでお安い御用と引き受けたレプロブスだったが、川を渡るうちに男の子は異様な重さになり、レプロブスは倒れんばかりになった。あまりの重さに男の子がただものでないことに気づいたレプロブスは丁重にその名前をたずねた。男の子は自らがイエス・キリストであると明かした。イエスは全世界の人々の罪を背負っているため重かったのである。川を渡りきったところでイエスはレプロブスを祝福し、今後は「キリストを背負ったもの」という意味の「クリストフォロス」と名乗るよう命じた。



ヒエロニムス・ボスの描くクリストフォロス

# ゼロ・グラビティ (映画)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

『ゼロ・グラビティ』(Gravity)は、アルフォンソ・キュアロン監督による2013年のSF・ヒューマン・サスペンス映画である。8月27日より開催される第70回ヴェネツィア国際映画祭のオープニング作品に選ばれた<sup>[1]</sup>。

## 目次

- 1 あらすじ
- 2 キャスト
- 3 製作
- 4 公開
- 5 興行収入
- 6 評価
  - 6.1 受賞
- 7 参考文献
- 8 外部リンク

## あらすじ

医療技師を務めるライアン・ストーン博士は、スペースミッションに初めて参加した。ライアンは船長を務めるマット・コワルスキーに連れられ、宇宙遊泳をするが、その最中に、宇宙ゴミがシャトルに衝突し、シャトルは壊される。そのため、2人は宇宙に取り残されてしまうのだった。

## キャスト

- サンドラ・ブロック - ライアン・ストーン
- ジョージ・クルーニー - マット・コワルスキー
- エド・ハリス - ミッション・コントロール(声のみ)

## 製作

『ゼロ・グラビティ』は、アルフォンソ・キュアロンが監督し、彼の息子ホナス・キュアロンと共同で脚本を執筆した。当初は、ユニバーサル・ピクチャーズで数年に渡って企画が進められていたが、やがてスタジオはターンアラウンド (他のスタジオへの売り出し) 状態に置いた。そしてワーナー・ブラザーズがプロジェクトを購入し、2010年2月に『ウォンテッド』の続編への出演を拒否したアンジェリーナ・ジョリーに接近した<sup>[2]</sup>。同月後半、ジョリーは出演料の問題と<sup>[3][4]</sup>ボスニア戦争を描いた映画『最愛の大地』を監督する予定があったために<sup>[5]</sup>プロジェクトを降板した<sup>[6]</sup>。3月、ロバート・ダウニー・Jrを男主演とするために交渉に入った<sup>[7]</sup>。

2010年半ば、マリオン・コティヤールが女主役としてのテストを受けた。2010年8月にはスカーレット・ヨハンソンとブレイク・ライヴリーの可能性が高くなった<sup>[3]</sup>。9月、キュアロンは当時賞賛されていた映画『ブラック・スワン』の主演であるナタリー・ポートマンを、スクリーン・テストを受けさせずに起用させることに関してワーナー・ブラザーズの承認を得た<sup>[8]</sup>。ポートマンがスケジュールの都合によりプロジェクトを去ると、ワーナー・ブラザーズはサンドラ・ブロックに接近した<sup>[5]</sup>。2010年11月、ダウニー・Jrは当時ショーン・レヴィが監督しようとしていた『How to Talk to Girls』に出演するため、プロジェクトを降板した<sup>[9]</sup>。翌12月、ブロックが主演契約を交わし、ダウニー・Jrが演じる予定だった役はジョージ・クルーニーに替わった<sup>[10]</sup>。

『ゼロ・グラビティ』の製作費は1億ドルであり、デジタルで撮影された。またポストプロダクション時に3Dに変換される。撮影は2011年5月にロンドンで開始された<sup>[11]</sup>。

## 公開

『ゼロ・グラビティ』は2012年11月21日公開を予定していたが<sup>[12]</sup>、2013年に延期された<sup>[13]</sup>。IMAX2D及び3Dでも公開される<sup>[14]</sup>。

## 興行収入

本作は木曜日の夜だけで、140万ドルを稼ぎ出し<sup>[15]</sup>、金曜日には1700万ドルにまで達した<sup>[16]</sup>。最終的に第1週の興行成績は5560万ドルにも達した<sup>[17][18]</sup>。これは秋に公開された作品の中では最高の初動成績であり、サンドラ・ブロック、ジョージ・クルーニー出演作品の中でも最高の初動成績となった<sup>[17][19]</sup>。この数字は専門家と配給元の予想を大きく上回るものである。10月9日には、全世界での興行収入が1億ドルに達した<sup>[20]</sup>。

## 評価

本作は2013年8月28日に第70回ヴェネツィア国際映画祭のオープニング作品として上映された。観客、批評家双方から演技・演出・脚本・映像美といった作品のあらゆる面を称賛された。特に、サンドラ・ブロックの演技は高く評価されている<sup>[21]</sup>。

映画批評家レビュー集積サイトRotten Tomatoesでは、2013年10月7日現在、217件のレビューがあり、批評家支持率は98%、平均点は10点満点で9.1点となっている<sup>[22]</sup>。Metacriticには、48件のレビューがあり加重平均値は96/100となっている<sup>[23]</sup>。

映画監督のクエンティン・タランティーノは本作を2013年度の映画トップ10に選出した<sup>[24]</sup>。スティーヴン・スピルバーグは「言葉が出なかったよ。君たち、一体何をやってたんだ?」とジョージ・クルーニーにコメントし、ジェームズ・キャメロンは「これは史上最も優れた宇宙の映像美で創り上げた、史上最高のスペース・エンターテイメント」、「キュアロンとサンドラは、無重力空間で生き延びるため闘う女性の姿を完璧に創り上げた」と語っている<sup>[25]</sup>。

### ゼロ・グラビティ

Gravity

監督 アルフォンソ・キュアロン  
脚本 アルフォンソ・キュアロン  
ホナス・キュアロン

製作 アルフォンソ・キュアロン  
デヴィッド・ハイマン

製作総指揮 スティーヴン・ジョーンズ

出演者 ジョージ・クルーニー  
サンドラ・ブロック

音楽 スティーヴン・プライス

撮影 エマニュエル・ルベツキ

編集 マーク・サンガー  
アルフォンソ・キュアロン

製作会社 ヘイデイ・フィルムズ

配給 ワーナー・ブラザーズ

公開  イタリア 2013年8月28日 (VIFF)  
 アメリカ 2013年10月4日  
 日本 2013年12月13日

上映時間 91分

製作国  アメリカ合衆国

言語 英語

製作費 \$100,000,000

興行収入 \$191,400,000

アポロ11号の乗組員であったバズ・オールドリンは本作の描写が現実の宇宙空間にかなり近いものであることを認めたくえで、称賛している<sup>[26]</sup>。

第86回アカデミー賞において、アルフォンソ・キュアロンの監督賞、サンドラ・ブロックの主演女優賞、エマニュエル・ルベツキの撮影賞へのノミネートに大きな期待がかかっている<sup>[27][28]</sup>。

## 受賞

2013年に開催されたハリウッド映画祭で、本作の演技によってサンドラ・ブロックが主演女優賞を受賞した<sup>[29]</sup>。

## 参考文献

- ↑ “George Clooney and Sandra Bullock to open Venice film festival (http://www.bbc.co.uk/news/entertainment-arts-23158374)”. 2013年7月21日閲覧。
- ↑ Brodesser-Akner, Claude (2010年2月25日). “Angelina Jolie Says No to Wanted 2, Killing the Sequel” (http://nymag.com/daily/entertainment/2010/02/angelina\_jolie\_wanted\_2\_out.html). New York Magazine
- ↑ <sup>a</sup> <sup>b</sup> Kit, Borys (2010年8月11日). “Blake Lively, Scarlett Johansson vie for sci-fi film” (http://www.reuters.com/article/2010/08/11/us-gravity-idUSTRE67AOW120100811). Reuters
- ↑ http://www.the-numbers.com/people/AJOLI.php
- ↑ <sup>a</sup> <sup>b</sup> Kroll, Justin (2010–10–06). “Sandra Bullock in talks for ‘Gravity’” (http://www.variety.com/article/VR1118025288). Variety.
- ↑ Sperling, Nicole (2010年2月26日). “Angelina Jolie out of ‘Wanted 2’: Follow-up project not a lock” (http://insidemovies.ew.com/2010/02/26/angelina-jolie-wanted-2/). Entertainment Weekly
- ↑ Rosenberg, Adam (2010年3月15日). “Robert Downey Jr. In Talks To Star In ‘Children Of Men’ Director Alfonso Cuarón’s ‘Gravity’” (http://moviesblog.mtv.com/2010/03/15/robert-downey-jr-gravity-alfonso-cuaron/). MTV
- ↑ Fernandez, Jay A. (2010年9月8日). “Natalie Portman offered lead in 3D survival story” (http://www.reuters.com/article/2010/09/08/us-portman-idUSTRE6865H420100908). Reuters
- ↑ Kit, Borys (2010–11–17). “EXCLUSIVE: Robert Downey Jr. Eyeing ‘How to Talk to Girls’” (http://www.hollywoodreporter.com/blogs/heat-vision/robert-downey-jr-eyeing-talk-46689). The Hollywood Reporter.
- ↑ McNary, Dave (2010–12–16). “Clooney to replace Downey Jr. in ‘Gravity’” (http://www.variety.com/article/VR1118029180). Variety.
- ↑ Dang, Simon (2011年4月17日). “Producer David Heyman Says Alfonso Cuarón’s 3D Sci-Fi Epic ‘Gravity’ Will Shoot This May” (http://blogs.indiewire.com/theplaylist/archives/producer\_mark\_heyman\_says\_alfonso\_cuarons\_gravity\_will\_shoot\_this\_may/). The Playlist
- ↑ Fleming, Mike (2011年8月3日). “Warner Bros Sets Its Oscar Season Dance Card” (http://www.deadline.com/2011/08/warner-bros-sets-its-oscar-season-dance-card/). Deadline.com 2011年8月17日閲覧。
- ↑ Vary, Adam (2012年5月14日). “Sandra Bullock, George Clooney sci-fi drama ‘Gravity’ pushed to 2013” (http://insidemovies.ew.com/2012/05/14/sandra-bullock-gravity-2013/). EW.com 2012年5月15日閲覧。
- ↑ IMAX Corporation (2010年4月28日). “UPDATE: Warner Bros. and IMAX Sign Up to 20 Picture Deal!” (http://www.comingsoon.net/news/movienews.php?id=65561). ComingSoon.net 2011年8月17日閲覧。
- ↑ “Box Office: ‘Gravity’ Takes Flight With \$1.4 Million Thursday Night (http://www.hollywoodreporter.com/news/box-office-gravity-takes-flight-643374)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “Friday Box Office: ‘Gravity’ Earns \$17.5m, Rockets Towards \$50m (http://www.forbes.com/sites/scottmendelson/2013/10/05/friday-box-office-gravity-earns-17m-rockets-towards-50m/)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ <sup>a</sup> <sup>b</sup> “S・ブロック、G・クルーニーの出演作『ゼロ・グラビティ』が『アバター』越えの人気で、興収約5,600万ドルの全米初登場1位！ (http://news.mynavi.jp/news/2013/10/07/285/index.html)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “‘Gravity’ Soars to Top of Weekend Box Office (http://abcnews.go.com/Entertainment/wireStory/gravity-soars-top-weekend-box-office-20487706)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “TOP OPENING WEEKENDS BY SEASON (http://www.boxofficemojo.com/alltime/weekends/byseason.htm?season=Fall&p=htm)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “『ゼロ・グラビティ』、5日で興行収入1億ドル突破 (http://www.rbbtoday.com/article/2013/10/11/112714.html)”. 2013年10月13日閲覧。
- ↑ “Early Reactions to GRAVITY Praise Sandra Bullock and George Clooney’s Performances, Alfonso Cuarón’s Direction, Emmanuel Lubezki’s Camerawork, and 3D (http://collider.com/gravity-reviews/)”. 2013年9月19日閲覧。
- ↑ “Gravity (2013) (http://www.rottentomatoes.com/m/gravity\_2013/)”. 2013年9月19日閲覧。
- ↑ “Gravity (http://www.metacritic.com/movie/gravity)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “Quentin Tarantino’s Top 10 Films of 2013 – SO FAR (http://www.tarantino.info/2013/10/05/quentin-tarantinos-top-10-films-2013-far/)”. 2013年10月13日閲覧。
- ↑ “Gravity (http://www.metacritic.com/movie/gravity)”. 2013年10月7日閲覧。
- ↑ “あの巨匠監督たちも絶賛! -映画『ゼロ・グラビティ』の予告映像公開 (http://news.mynavi.jp/news/2013/10/17/105/)”. 2013年10月19日閲覧。
- ↑ “Gurus o’ Gold: Post New York Film Festival (http://moviecitynews.com/2013/10/gurus-o-gold-post-new-york-film-festival/)”. 2013年10月19日閲覧。
- ↑ “http://www.indiewire.com/article/2014-oscar-predictions-best-picture”. 2013年10月19日閲覧。
- ↑ “Sandra Bullock To Be Honored With The Hollywood Actress Award at the 17th Annual Hollywood Film Awards (http://www.hollywoodawards.com/2013/09/sandra-bullock-to-be-honored-with-the-hollywood-actress-award-at-the-17th-annual-hollywood-film-awards/)”. 2013年9月20日閲覧。

## 外部リンク

- 公式ウェブサイト (http://www.zerogravitymovie.jp/)
- ゼロ・グラビティ (http://www.allcinema.net/prog/show\_c.php?num\_c=346608) - allcinema
- Gravity (http://www.allmovie.com/movie/v523235) - AllMovie (英語)
- Gravity (http://www.imdb.com/title/tt1454468/) - インターネット・ムービー・データベース (英語)



この項目は、映画に関連した書きかけの項目です。この項目を加筆・訂正（//ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E3%82%BC%E3%83%AD%E3%83%BB%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%93%E3%83%86%E3%82%A3\_(%E6%98%A0%E7%94%BB)&action=edit）としてくださる協力者を求めています（P:映画/PJ映画）。

「http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ゼロ・グラビティ\_(映画)&oldid=49465363」から取得

カテゴリ: 2013年の映画 | アメリカ合衆国の3D映画作品 | アメリカ合衆国のSF映画作品 | アメリカ合衆国のスリラー映画 | IMAX映画

| 宇宙を舞台とした映画 | ワーナー・ブラザーズ の作品

- 最終更新 2013年10月19日 (土) 10:46 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
- テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。



# イーカロス

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

イーカロス (古希: Ἰκάρως, ラテン文字化: Ikaros, ラテン語: Icarus) は、ギリシア神話に登場する人物の一人である。伝説的な大工・職人ダイダロスとナウクラテーの息子。母ナウクラテーはクレータ島の王ミーノースの女奴隷である<sup>[1]</sup>。長母音を省略したイカロスや、ラテン語読みのイカルスとも表記される。

ダイダロスとイーカロスの親子はミーノース王の不興を買い、迷宮(あるいは塔)に幽閉されてしまう。彼らは蠟で鳥の羽根を固めて翼をつくり、空を飛んで脱出したが、イーカロスは父の警告を忘れ高く飛びすぎて、太陽の熱で蠟を溶かされ墜落死した。彼が落下した海は、彼の名にちなんでイカリアー海と名づけられた<sup>[2]</sup>。

楕円軌道を描いて水星軌道の内側へはいる小惑星のひとつが、彼の故事にちなみイカルスと名づけられている。



ピーテル・ブリューゲル作『イカロスの失墜』(1558) ベルギー王立美術館所蔵。

イーカロスは画面右下に小さく描かれ、海に墜落し足だけが見えている。

## ギャラリー



絵画『イーカロスへの哀歌』(1898)



絵画『太陽またはイーカロスの墜落』(1819、ルーヴル美術館)



右下に迷宮が描かれた17世紀のレリーフ



『イーカロス』(1993年作品)

## 脚注

- ↑ アポドーロス、摘要 (E) 1・12。
- ↑ アポドーロス、摘要 (E) 1・12、1・13。

## 関連項目

- イカリア島
- 勇気一つを友にして
- IKAROS